

column 01

F.A.I.L 学びの 第一歩

キッチン是最良の学習机

2歳～5歳頃の子どもはお手伝いが大好き。好奇心旺盛な幼少期は、何でも自分でやりたい！ママやパパが料理をしていたら、一緒にやりたい！こんな主張をする子どもは少なくないのではないのでしょうか。しかしながら近年、危険が多いという理由から子どもがキッチンに立つ機会が減少したように思います。たしかに熱い鍋に触れて火傷をしたり、刃物で指を切ったりリスクをあげればキリがないでしょう。ただそのリスク以上に、子どもたちがキッチンという学習机に向かうことの意義は大きいでしょう。彼らは大人の想像力をはるかに超えた好奇心と共に探究し、吸収し、成長します。

たまねぎから学ぶ

キッチンには、幼稚園や学校などの教育施設に劣らないくらい好奇心を刺激する教材（食材）がたくさん転がっています。

例えば、たまねぎ。「どうやったら皮をうまく剥けるかなあ？」、「たまねぎを切るとなぜ涙が出るの？」、「効率よくたまねぎをみじん切りにするにはどうしたらいい？」、「たまねぎを炒めると茶色くなるのはなぜ？」このような実体験からくる疑問は教科書やゲームからは生まれません。全ての疑問は学問への入口です。

体験の場は誰が守る？

とはいえ、慣れないうちは失敗のオンパレード。キッチンの上にはベタベタのチョコレート、床にはかびかびになった卵黄、フライパンには真っ黒に焦げたパンケーキ。でも待って！そのぎょっとする光景は子どもたちが失敗という体験を重ねた軌跡なのではないでしょうか。この光景を守ってあげられるかどうかは指導者の皆さんにかかっています。

失敗という成功体験を子どもたちに

どんなことでも新しいスキルを身に付けるためには、失敗は避けて通れないものです。何より重要なことは「失敗＝ネガティブ」なものとして捉えるのではなく、「失敗＝成功につながる体験」という認識を指導者がもって子どもに接することです。料理の過程で重ねた失敗は、子どもたちの中で積み重なり、いつしかその体験が自信となり、自己肯定感が育まれていくでしょう。料理は何度でも挑戦できるのが良いところ。期待に沿わない形でできあがった料理もみんなでワイワイ食べれば、その味もまた思い出になります。

また、全てを教え込むのではなく、子どもの自発的な活動を尊重してあげてください。失敗OK！そんなポジティブな思考に引き寄せられて、子どもたちは自然に笑顔になり、トライしたくなるのです。キッチンにはまだまだ知らないことがたくさん。食を通じた体験活動を子どもたちに。

失敗—それは“FAIL”。子どもの視点から、もう一度見つめてみませんか？

FIRST
ATTEMPT
IN
LEARNING

“失敗は、学びの第一歩”